

令和6年度 神奈川県立衛生看護専門学校 学校関係者評価委員会 議事概要

日 時 令和6年6月26日(水) 15時00分～16時30分

場 所 衛生看護専門学校 会議室

1 校長あいさつ

- 田中校長よりあいさつ。昨年度、初めてこの委員会が開かれ、委員の皆様から貴重なご意見、ご提言をいただき、それを踏まえながら本校の教育の質を向上させるべく、令和5年度の学校運営に取り組んできた。第一に報告すべきことは、令和5年度の国家試験で、両学科とも全員合格、看護学科は昨年の不合格者1名を含めて、合格率100%を成し遂げた。

これは、教職員が学生への丁寧な指導ときめ細かなサポート、これを日々地道に積み重ねてきた成果であり、改めて本校の教育の質の高さを示すことができたと思っている。

また、課題となっている看護学科の入学者確保については、昨年度AO試験を新たに実施するなど、試験の改善を行うとともに、学校説明会の充実など、説明会や広報の改善を行い、令和6年度の入学者は、昨年度よりも23人多い102人となった。令和7年度入試に向けては、県医師会所管の教務部ホームページを全面リニューアルし、県のホームページとの連携も強化するなど、広報を充実させた。

また、看護学科、助産師学科とも、県内就職率の向上を目指すために、全ての入試区分で、「神奈川県内で就業する意思のある者」を受験資格に明記した。

そして、助産師学科については、令和6年度の実習先について調整に尽力した結果、前年よりも2人多い28人の実習枠を確保することができ、令和6年度の入学者を増やすことに繋げることができた。

さらには、助産師学科の学内公募試験の受験資格の見直しにより、令和6年度は、本校の看護学科から6人が助産師学科に進学することができた。助産師学科のある県内唯一の看護専門学校として、看護学科と助産師学科との連携を本校の大きな特色として、看護学科の入学者確保で大きくPRすることができるようになった。

このように、学校として、令和5年度、様々な取り組みを行い成果を上げたと考えているが、昨今の看護師、助産師養成を巡る環境に変化がみられる中、本日は、大所高所から、委員の皆様のご忌憚のない御意見をいただくようお願いする。

2 趣旨説明

- 市之瀬副校長より、本委員会の趣旨説明。これまで、教育活動及び学校運営について自ら評価を行い公表してきたが、昨年度から、さらなる教育の質の向上に資する事を目的として、自己評価に加えて、学校関係者評価委員会を設置して、学校関係者による評価を行い、公表することとした。

3 議長選出

- 学校関係者評価委員会要綱第4条第1項に基づき、校長が議長を選任。議長は、林田委員。

4 委員及び教職員紹介

- 委員及び教職員紹介は省略

5 学校評価について

(市之瀬管理担当副校長)

- 配付資料に基づき説明

【令和5年度の取組】

- ・ 令和5年度は、新カリキュラムがスタートして2年目となり、看護学科では、1・2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムで運用した。昨年度に引き続き、カリキュラムの読み替えや、補習講義・補習実習などを実施し、単位を修得できるよう、全教員で一丸となって取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症が、5類に移行した後も、マスクの着用を含め基本的な感染対策や健康管理を引き続き行い、臨地実習をはじめ、教育活動を円滑に実施することができた。看護学科の学生受け入れ募集については、令和5年度の79人に対し、入学者確保に努めた結果、令和6年度は、102人が入学した。

【自己点検・自己評価】

- ・ 専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、平成22年度から自己点検・自己評価を開始し、今年度も昨年度と同様、I.教育理念・目標など10の大項目と、59の小項目について、各項目4点満点で評価を行った。
- ・ 昨年度と比べ、「IV学習成果」、「V学生支援」で自己評価が低下した。「IV学習成果」は、助産師学科において、県内就職率が72%と低迷していること、「V学生支援」は、学習支援、生活指導において、個別対応が必要な学生が増加し、対応に苦慮していることが主な要因とされている。
- ・ 一方で、「VII学生の受け入れ募集」、「IX法令順守」、「X地域・社会貢献」は、自己評価が高くなった。

「VII学生の受け入れ募集」は、ホームページの改善と、学校説明会に在校生が参加するなど教員と学生の協力があつたこと、「IX法令順守」は、令和5年度から学校関係者評価を行い、そこでの評価結果を踏まえ、より一層の教育の質の向上に取り組んだこと、「X地域・社会貢献」は、コロナ前と同様に近隣自治会にも周知し、一般の方も来場して文化祭が実施できたことなどが評価されたことが主な要因とされている。

- ・ また、「VI教育環境」は、昨年度と変わらず低くなっている。これは、校内のWi-Fi環境の整備が進まなかったことが要因とされている。これについては、県の担当部局が予算確保に向けた調整を進めていると聞いている。

【重点目標】

令和5年度は、特に重点的に取り組むものとして、次の3つを掲げ取り組んだ。

- 1 令和5年度カリキュラムを円滑に運営する。(両学科) / 旧カリキュラムで入学した学生の単位修得における不利益を生じさせない。(看護学科)
- 2 看護学科の令和6年度入学生を確保する。(看護学科)
- 3 助産師学科の実習施設を確保する。(助産師学科)

【学校評価報告書】

重点目標1「令和5年度カリキュラムを円滑に運営する。(両学科) / 旧カリキュラムで入学した

学生の単位修得における不利益を生じさせない。(看護学科)」

看護学科の取組では、旧カリキュラム対象学生に対し、不利益が生じないよう補講対象科目の単位修得に向け支援を行った。令和6年度は、1～3年生まで新カリキュラムになり、科目履修生が旧カリキュラムとなるが、これまで同様、対象学生に不利益が生じないよう取り組んでいく。

助産師学科では、計画通り、学内授業、臨地実習とも滞りなく実施できた。全学生26人が、9件以上の分娩介助を行い、25人が卒業した。令和6年度は、卒業できなかった学生の支援を行い、国家試験合格を目指すとともに、分娩介助1人10件を目指す。

重点目標2「看護学科の令和6年度入学生を確保する。(看護学科)」

評価項目「広報」

ホームページの改善、本校の特色や入試概要をまとめた入試情報ちらしを新たに作成した。また、学校説明会や少人数見学会等の説明会を拡充した。さらに、昨年度初めて、県教育委員会主催のインターンシップ事業で、高校生を受入れ、模擬授業を体験してもらった。

評価項目「入試改善」

令和6年度入試(令和5年度実施)で、AO入試を新たに実施したこともあり、令和6年度入学者は102人となり、定員120人の85%を確保した。

しかしながら、指定校推薦入試による入学者は、前年度34人から33人に減少した。そこで、県内看護学校等の入試の実情や本校入学試験の出願状況等を総合的に勘案し、令和7年度入試(令和6年度実施)では、推薦基準の成績要件の見直しを行った。

また、昨年度の当委員会において、看護学科の一般入試の問題について、検討が必要ではないかとの御指摘をいただいた。そこで、一般入試の国語、数学の試験問題について、看護師としてふさわしい学力を身に付けているかを測る観点から、学内のスタディーサポートチームと連携し、令和7年度入試に向けて試験内容の検討を行った。

さらに、本校は、看護学科と助産師学科が併設されているという特色があることから、助産師を希望する高校生に対し、本校の看護学科に入学し助産師学科へ進学することのメリットを学校説明会等で強くアピールした。その結果、助産師に興味を持つ学生が受験したことも入学者の増につながったと考えている。

また、助産師学科の入試については、昨年度の当委員会で、助産師学科が併設された専門学校で学内進学の道があるにもかかわらず、学内公募入試の受験者がゼロというのは問題であるとのこと指摘をいただいた。そこで、学内公募入試の受験資格を見直した結果、募集人員が8人程度のところ、6人が入学した。

重点目標3「助産師学科の実習施設を確保する」

出生数の減少や県外からの実習生の受入れ増加、大学院等との実習生の受入れ競合の拡大等、実習施設の確保が困難な状況にある。臨地実習の受入れ先の確保は、入学者数に直結することから、受入施設の新規開拓と合わせ、既存の実習施設の受入人数の増に向けて、積極的な情報収集と働きかけを行った。

その結果、受入れ先について、令和5年度の26人分から、令和6年度は、28人分を確保した。令和7年度に向けては、現時点で、1施設2人減が見込まれており、受入れ人数の増が課題となって

いる。

6 意見交換

(1) 重点目標1「令和5年度カリキュラムを円滑に運営する/旧カリキュラムで入学した学生の単位習得における不利益を生じさせない(看護学科)」。

(金井委員)

実習の受け入れをしているが、カリキュラムの変更については混乱するような事は無く、先生達のご尽力でスムーズにいったと思う。

(新倉委員)

実習記録の一部見直しという事だが、実習そのものがかなりハードになっているのと、学生の文章を書く能力が若干苦しくなっていることもあり、実習によっては大きな負担となっているようだ。助産師学科の学生は、看護学科を卒業した学生だから、大人なので大丈夫だと思うが、看護学科でも同じような課題があるのかなと感じた。

(林田議長)

カリキュラムの変更に対応するのは結構大変で、いくつかの大学でもあったが、卒業年度にまだ単位が足りず、卒業後に足りない科目を履修しなければならないとか、国家試験を受けるのに必要な科目が取れていなくて、よくあるのが日本国憲法などだが、見逃してしまったという事をニュースでもよくやっているが、今年の3年生は、卒業や国家試験があるのでとても緊張感をもってやれたのだろうと思う。報告書を読ませていただくと、担当者が漏れの無いよう何度も何度も確認されたという事なので、学生もしっかりしなければいけないが、先生方がサポートして無事に単位の修得に至ったというのは先生方の頑張りだったのだろうと思う。

ところで、評価報告書の助産師学科の学内評価の欄に、「臨床指導者会議に於いて『学生の特徴を教えてほしい。記録が多い。時代に合っていない。』」とあるが、これは何を意味するのか。

(古賀助産師学科長)

コロナ前は、指導者や病棟師長にお集まりいただき、臨床指導者会議をやっていたが、コロナ禍に入ってからではできていなかった。今年3月、昨年度の臨地実習が全て終わった段階で、対面で指導者会議を行った。コロナ禍を看護学生として過ごし、臨地実習の経験がほとんどなく助産師学科へ入学したという学生が8割いたので、指導が大変だったというところから話を進めていった。学生は一生懸命やっていたと思うが、報告書を作成しても、文章力が本当に厳しい。文章力だけでなく、対面で報告をする機会が看護の基礎の実習で無かったので、臨地実習に行っている学生の緊張が非常に高かった。そうした中で分娩介助もしなければならぬし、あれもこれもしなければならないという多重課題でいっぱいになっていた。そういう学生の姿を見て、もっとこういう考え方をしてほしいとか、こういう学びをしてほしいという指導者の思いもある。一方で、実習記録の種類がとにかく多い。本校の助産師学科の特性でもあるが、実習記録の患者に関わるものはすべて手書きとしている。今時の学生はパソコンに慣れているが、パソコンで記録することを許可していないので、すごく時間がかかるし字も大変読みづらい。その姿を見て、指導者からもう少しそれを

集約、緩和することができないのか、そうすることでもっと対象の傍に行けるのではないかとおっしゃっていた。私達も実習指導に行っていてそのような側面を感じていたので、検討する事にして、次年度に、少しずつではあるが、実習記録の種類を減らしたり、要約できるように書式を変えたりといった対応をしているところである。

(林田議長)

これによって改善に繋がったという事か。

(古賀科長)

繋がりたいと思う。

(林田議長)

よろしく願います。

(菊住委員)

一点目は、カリキュラムの読み替えについてだが、大学でも読み替えに失敗して、学期が始まってから読み替えができていないという事が分かり、後から補講という形で、対象学生に対して授業を行ったことがあった。事前に周知徹底したつもりでもそういう事が起こるので、カリキュラムの読み替えをミスなくやることは、とても大変だったと思う。最終学年で、読み替えのミスがなく、よくクリアなさったなと思った。

2点目は、学生の書く力。この間も助産師学科の教員とお話をさせていただいたが、助産師学科の授業が5月にあって、そこでとてもいいグループワークができた。対話をする事に対してものすごく積極的で素晴らしいと思ったが、期末レポートが出てきたら、その内容がとても薄い。自分の考えを文章にする、手で書くという事がとても難しい。では特に何も考えていないかという、タブレットで書いたりするものは結構いろいろな事が書ける。ツールの違い、書き易さの違いはあるのだなという事を感じた。その辺りを今の学生達に合うような形に変えてあげて、しかも本来の学習に力を割けるようにしてあげたいと思った。文章力を上げるという事はものすごく時間がかかる事で、何年かかるようなレベルのものかもしれない。それを在学中に全部そこまで力を傾けるよりも、むしろ他のやり方で改善をするという事も併せて考えていただければと思った。

(木下委員)

カリキュラムの変更については、現場は特に混乱もなかった。おそらく、臨床指導者会議などで先生方に来ていただいて丁寧に説明いただいたので、混乱なく進められたものと思っている。

学生の文章力については、現場ではすごく短く書くとか、(+) (ー) (プラスマイナス) とか1～5の表記で書くとか、だんだん変わってきており、ますます書くことが少なくなってしまうと思うので、事例発表や、ナラティブ (narrative/物語) を語るなど、文書にすることに取り組んでいる。驚いたのが、採用試験で作文を書いた方の文章を見た時に、句読点の一つもない文章があり、衝撃を受けたことがあった。文化が違ってきているのかもしれない。実習施設としても卒業後の現場教育で何とかしていきたいと思っている。

(2) 重点目標2「看護学科の令和6年度入学生を確保する。」

(木下委員)

ホームページについては、私達も採用のホームページには非常に神経を使っているが、斬新なものに変えると全然募集が変わってくるというのも傾向なのかなと思っていて、ホームページ作成依頼業者とも話しあったが、ブログなどを頻回に上げないと見てくれないと言われたので、そういう事を考えていく必要があると思った。

(菊住委員)

学校説明会の模擬授業というのは、どのように行ったのか。高校生を対象に行ったようだが、高校生は授業のイメージを持てたか。

(大堀看護学科長)

生徒の興味が沸くものという事で、主に看護技術や、ベビーがメインになってくるが、今年度は、肺を作ってみた。陰圧とか、実際に風船を膨らまして肺を作るという実験をやり、生徒達がすごく楽しそうに作成していた。実際に自分の体がどうなっているのか、肺の機能がどうなっているのかという事を、物を使いながらやることで、学習に繋がっていることや、こういうことを実際にやっていることに、興味をすごく持ってもらったかなと思っている。

(菊住委員)

イメージするというのは上手くやれば効果があると思う。ただ話を聞いて楽しそうだな、というだけではなくて、大変そうだという印象を持つ方が多いかもしれない。そこを、体験によってモチベーションを上げる事をされているというのは、工夫していて良かったと思う。学生は、この学校に入ったらどんな生活になるのか、色々と調べてくると思うが、私が直接学生から聞くのは、こんなに大変だと思わなかったとか、自分のキャパオーバーであるという話が多いという印象がある。途中でドロップアウトする事もあるので、イメージを具体的に示していくといいと思う。

それから入試の改善だが、たくさん入学して良かったと思う。しかしながら、改善の余地はまだあると思っていて、これまで、アドミッション・ポリシーをきちんと具体的にイメージする機会はなかなか無かったし、これは本校に限った話ではなくて、難しいと思う。アドミッション・ポリシーとは何から始まって、それが具体的にどういう事を理解できている18才、19才の子はそんなに多くないと思う。そこをどういう言葉で伝えていくのか、かなり丁寧にやっていただきたいと思う。ほとんど読まずに、知らずに入学してくる子がいると思うので、入学後に、これはちょっと違うぞ、ということが無いようにしていただけたらと思う。

(林田議長)

ホームページをリニューアルして、学校説明会もかなりの回数やって、高校生を対象にした模擬実習も新しい方法を取り入れて、AO入試も新しく入れて、入学生が飛躍的に驚くほど増えたというのは良かったと思う。先ほど話があったが、高校生を対象に模擬授業をやるというのは、多くのところで行われている。高校生を集めて血圧を測ってみようという事で、お互いに血圧を測り、そこに先生がついてサポートしたり、或いは模型の赤ちゃんを使ったり、実習体験という形で色々な

学校で好評なようだ。

あとは、今、多くの専門学校も大学もWeb出願がほとんどで、お金の払い方も含めて主流となっている。ただ、現実にはWeb出願にはお金もかかるので直ぐにという訳にはいかないが、検討してもよいのではないかと思った。

入試で、かなりの学生が入学して良かったし、このまま続けばいいなと思うが、今後は倍率を出してほしい。今は、定員を充足するという意味で、とりあえず学生の数を確保することが第一で、これは当然大事だが、今後は、競争率が1.2倍でも1.5倍でも出ることによって、質の高い学生や学力のある学生が入学することで、それが恐らく臨地実習の受入れにも反映してくると思う。いい学生が来るなら実習施設も受け入れるでしょうが、課題のある学生が次々来ると、あそこの学生は受けられないという事になって困るので、今は充足率を満たすことが第一ですが、今後はそれを伸ばして競争率を出すことによって、学生の質や学力の向上に繋がるのかなと感じた。

また、助産師学科は学内公募で6人入ったのは良かったと思う。

(新倉委員)

入学者が増えて本当に良かったと思う。色々な取り組みをされて、成果が出て素晴らしいと思う。

ホームページについてだが、ホームページに動画は入っているのか。今の高校生は動画を見たいという傾向がある。あまり長いと見ないので5~10分くらいでいいと思うが、看護・助産の仕事の魅力を、卒業生や先生、又は実習に行つて感動した事などを学生が語るようなものもあるとすごく良いのではないかと思った。それは学校説明会も同じで、模擬授業も素晴らしいと思うが、教育担当副校長による少人数見学会とZoom説明会、こういうところにも在校生との触れ合いみたいなものが入る、看護師や助産師の魅力とは何なのかという事を学生が生き生きと語ってくれると、ああいふ先輩のいる所に行こうとなるので、うまく織り込むととても良いのではないかと思った。

入試方法についてだが、一つの案ではあるが、総合型選抜の中身を更に工夫するといいと思う。なぜ「AO」ではなく「総合型」なのかというと、アドミッション・ポリシーを18歳で理解しきれるものではないし、もちろん理解しなければいけないのだけれども、いわゆる暗記型筆記テストのみでは計れない学力を豊かに持つ、力のある子を取ろうという趣旨の入試なので、今の形でももちろんいいと思うし、ある程度の絞り込みをする筆記試験はすごく大事だが、これに加えて、又はこれと選択制でも良いかもしれないが、高校での探究学習の成果を入試の一つの課題として提出させてもよいと思う。高校には「総合的な探究の時間」がある。各教科の探究学習もある程度ある。学校によってすごくばらつきがあり、探究と言いつながら単に進路説明会のようなものを開いて終わってしまう学校もあるが、ものすごく丁寧に生徒自身が探究をする学校もある。例えば、老人ホームでアニマルセラピーに関心を持って、色々な物を見学して、調べて、自分自身は農業大学の動物行動療法学科に入れていただいたという、そのような探究をものすごくきちんとやらせている学校も結構ある。そういう子たちは学力がまんべんなく良い点が取れているとは限らないので、もしかしたら平均評点3.5に満たないかもしれないが、一つのをしっかり学べる子というのは、大学でも専門学校に入った後も学びがかなりきちんとしている。看護を選んだ後の学習の質という部分では、探究学習の成果を提出せよという入試も良いかと思う。ただ、誰が作ったか分からないものを出してくる可能性もあるので、きちんとプレゼンをさせるか、口頭試問をする必要もあるが、そういう入試をやっている大学も増えてきているので、もしかしたら、これで受けられると、希望者が増えて、入った子の質が良くなっていくかもしれない。

(林田議長)

今の話に追加すると、ポートフォリオという試験もある。高校3年間で自分が一体何をやってきたのかという事を、作文とか、探究学習であるとか、夏休みにボランティアにどう取り組んできたとか、自分の3年間の歴史みたいなものをまとめたものをポートフォリオという名称で呼んでいて、自分で卒業するまでためていく。3年間、自分は数学は苦手だったけど、こちらで一生懸命やった、という事を評価するということもあるので、入試前に慌てて作文で作る志望動機よりも過去の積み重ねになるので、もしかしたら良いかもしれないと思った。

(金井委員)

ポートフォリオは、実際にうちのスタッフ教育で使っており、自分が専門職としてどういう風に、何を目指していくかは、それぞれ現場で働きながら、色々な事に広がっていく。研修も行っているが、その場限りで流されてしまうこともあり、ポートフォリオであれば、スタッフの関心がどこにあるのかこちら側も見やすくて、いい手法だと思っている。

入学者が前年度より23人増は素晴らしい。少子化でどうなっていくのだろうと思っていたが、先生方の工夫があつてのことと思う。

採用、募集はネットなので、ホームページやブログなどに余りお金もかけられないので、YouTubeで採用しているステーションもあるなど、採用方法も変わってきていると思う。実習に来る学生に、横浜の在宅看護協会が出しているサービスの説明などの資料を、iPadで電子カルテを使わせたら本当に何の問題も抵抗もなく使えているし、紙ではないのだなとすごく思う。情報の取り方も非常にうまい。その辺が今時の学生の特徴なのかもしれないと思う。いい人材を多く入学者として確保できるよう、取り組みとしては大変だと思うが、ぜひこのまま学生が確保できて、実習に来ていただけるように続けばいいなと思った。

(3) 重点目標3「助産師学科の実習施設を確保する(助産師学科)」

(金井委員)

助産の実習施設について、前年度も難しいという話を聞いていたので、受入れ施設が増えたことは良かったと思う。このまま安定して分娩介助を10例実習できるといいと思う。

(新倉委員)

大変なご苦労があったと思う。就職先の事も含めて、継続していけるといいと思う。

(菊住委員)

せっかくですから、実習施設を増やすうえでの苦労話を教えてほしい。

(古賀助産師科長)

現在、助産師学科の常勤の教員数は科長を含めて5人である。28人の学生をこれから実習に向かわせるが、施設の数が増えたのは大変喜ばしいことではあるが、5人しか教員がいないところで13施設にどう行くのか、とても指導教員の確保に苦慮している。非常勤として、主に卒業生だが、少し

でも手伝えるという人に来てもらって、教員の行けない所に行ってもらったりしているが、それでも13施設は結構厳しい。できれば、受け入れを復活していただいた施設や、以前より受け入れ人数が減った施設もある中で、今後は受け入れていただく学生数を増やしていただけないかと、これから交渉していこうかなと思っている。少ない教員数でも何とか学習支援もしていけるように葛藤しており、少しでも工夫していこうかと思っている。

(木下委員)

実習先が増えて良かったなとは思いますが、実習で受け入れているのに就職で来てくれない、という施設が結構ある。卒業生が行かないと、だんだん受け入れてくれなくなってしまう。将来の事を考えると、その辺りが気になった。参考資料を見ると、実習病院以外の所に結構就職している。もう少し、実習で受け入れてくれる病院に就職したら、喜んで実習の受け入れしてくれるのではないかと思った。

(4) 全体を通じて

(木下委員)

入試の問題につながるかもしれないが、看護師として入職して一番困るのが、多重課題ができない人や、何度言っても覚えられないとか、計算ができないということ。例えば、出血量がこの位だけど、何時間経ってこの位になったから、その差はいくらかという計算ができない。0時を超えると時間の計算ができない。そういう方が5%位の割合で出てくる。そうすると、1年位はこちらも一生懸命教えるし、何とか働けるところで働いてもらうが、2年目はお互いの為に離脱せざるを得なくなってしまう。そのへんのところを入試で見極めるとか、或いは学生のうちにクリアできないかなというのが、一番の悩みだ。

(菊住委員)

障害支援の責任者をしているので、そういう学生と話をするが、なかなか教育して変わるものではない。できる所で何ができるかという事を考えるしかない。それで看護に向かないなど分かれば決断や指導が必要となってくるが、本人がどこかで意識していると思う。恐らくそれは入職してから気づくのではなくて、以前から気付いているはずだ。それとどう向き合ってきたのか、どこかで問うていく必要があると思う。

(木下委員)

採用面接だけでは掴みきれない。成績は良かったりする。

(林田議長)

ICTの話が出ていたが、学生に話を聞くと、学校にWi-Fiが無いのは大雨の日に傘が無いのと一緒だという。休み時間に一斉にスマホを使うと、繋がらないので外に出て使う。教科書も最近はいPadに入るようになってきているし、先生方もアップロードして資料を出すと思うので、昨年この問題は出たと思うが、Wi-Fiの問題は、本当に学生募集に繋がる問題だと思う。最近はずぐに口コミで広がるので、あそこの学校はWi-Fiが繋がらないというだけで入学希望者が減りそうな気がする。これは考えないといけないと思う。

また、お金はかかるが、試験でマークシートを使えるようにしていただけるといい。これは、国家試験に向けて模擬テストをすると、その場ですぐそのクラスの苦手な部分の結果が出てくる。普通の採点だと、何の領域がどれくらい弱いかというのは先生が集計するしかないけれど、マークシートだと試験が終わった3分後にはどこが低いか出て、そこを強化することができる。もちろん紙代もかかるし、読み取り機械にもお金がかかるが、費用対効果がかなり高く、先生方の負担軽減にもなるので、すぐにではなくとも、検討していただければなと思った。

(新倉委員)

私もその点は同感だ。電子教科書になり、いろいろなシステムを使って授業ができるのかなと思っていたら、Wi-Fiに繋がらないと。先日Google Classroomに資料を上げたのだが、「学校でダウンロードするのは通信料がかかるから、前日までにアップしてほしい、そうしたら家でダウンロードしてくる。」と言われた。

マークシートについてだが、どちらが良いか分からないが「Teams for Education」というマイクロソフトのシステムがある。課題が出せるシステムなのだが、問題を出して、即生徒が答えてくる。すぐにどこがどれくらい間違えているか、誤答がどれかがぱっと出る。国家試験に向けて学生を鍛えていくには良い。Googleでも同じような感じでできると思うので、県立高校でも入試がらみでマークシートの採点機があるらしいので、それでもいい。

(林田議長)

Teamsだと、教室に問題を投影して、それに答えさせると、スクリーンに結果が2・3秒で出てくる。そうすると3番の正答率が15%ね、と言って3番をやらせてみる、という様にリアルタイムで結果が出てきて授業ができる。ただその場合、その場でスマホを使って授業をやるので、やはりWi-Fiが必要だ。

(新倉委員)

Googleの方が無料で使えるようなものがあって、Teams for Educationはシステムの契約料が相当高いと思う。マークシートの機械を買うのとどちらが安いかは分からない。

(菊住委員)

「V学生支援」の自己評価についてお尋ねしたい。学生支援、学習成果の自己評価の評価点が前年度より下回り、その要因として、個別指導・個別支援が必要な学生が増加して対応に苦慮したとの記載があるが、具体的にどういう指導・支援をしているか教えていただきたい。

(大堀看護学科長)

学習支援に関しては、スタディサポートチームを発足して、学年とは別にチームをつくり担当教員を3人置いた。担当教員が各学年の担当に入り、1年から3年までの対策という事で、去年行われたのは放課後学習と空きコマ学習である。Googleフォームで予約をする。主体的な学習方法が確立できない学生に関しては予約を入れてもらい、放課後に個別で、どういうところができないか、放課後学習として、午後6時まで実施していた。定期的に、再試験が重い科目に関しては事前に学習に対しての補講をしたり、できないところはノウハウを教えるという形で実施した。今年はその

実績を踏まえて、1年生は朝学習という形で朝15分位、2年生は水曜日学習として空きコマ時間を用いながら、スタディサポートチームが計画した階級別の学習方法に取り組むという形にしている。

(菊住委員)

そこまでして、ぐっと評価が上がるのか。

(大堀看護学科長)

特に学力の低い学生は、学習の習慣が身につけていないので、ぐっと上がることは無い。ただ、昨年度と比べて何が違うかという点、昨年度は単位習得試験の前に補講を入れて、ここが出るかもしれないよと言ってもわからない学生達がいる、読解力がない、文章が書けない、計算ができない学生に関しては、補講のレベルでは追い付かないという事が分かったので、今年度は更に、塾の講師を呼んで、学力の低い学生を対象に個別学習を始めたところです。中々成果が難しく、上がっていかないという現状もある。やらないよりは効果は出たのだなという結果は出ているのだが、非常に上がったかという点で難しく、どうやったらよいか逆に教えていただきたいと思っている。

(菊住委員)

学習サポートが必要な学生もいると思う。そういう制度があるという事自体で救われている学生もいると思うので、レーダーチャートを見るとなぜ評価点が下がってしまったのかなと思うが、これにめげずに続けていただけたらと思う。これ以上に、こんなにいい策があるよ、というような策はなかなか無い気がする。続けていかれるという事ではないかと思う。

(林田議長)

昨年6月に第1回会議があり、昨年課題とされた事が相当改善されていると思った。教員、事務の皆さんの努力があり、学生自身も頑張ったのだろうと思う。よくPDCAサイクルと言うが、このサイクルを止めずに回し続けることで、どこまで良くなるか、という期待を持ちたいと思っている。今回課題になったことが来年また改善されていければ、この会が少しでも力になればと思っている。

7 事務連絡

- 本日いただいた御意見は、報告書に反映させ整理し、9月頃を目途に県のホームページで公表する予定。

8 閉会

(田中校長)

林田議長からPDCAサイクルの話があったが、当委員会でもいただいた御意見については、また1年後どうなっているか、しっかりやっていきたいと思う。

本日は長時間にわたり、貴重な御意見をいただき感謝する。

以上